

# 交通事業経営における安全確保に関する研究

北河 渉 主任研究員

## 1. 本研究の目的・手法

安全の確保は公共交通において最大、最優先の使命であると言われる一方、今後も、交通事業を取り巻く厳しい経営環境は続くと考えられる。また、利用者保護も公共交通における重要な課題である。そこで、本研究は、

- (1) 利益と安全は両立しえないか
- (2) 利用者は安全により積極的に関与すべきではないか

との問題意識に基づき、

- (1) 安全確保が事業経営に与える影響
- (2) 事業者の責務と利用者の役割
- (3) 以上を踏まえて行政が展開する政策について、ヒアリング及び文献調査により、検証と提言を行うことを目的とする。

## 2. 交通事業者の最適な安全意識

交通事業者は、

- (1) 安全確保は最大、最優先の使命であるとともに、
- (2) 安全確保により、事故による損失を防止するうえ、他の経営品質やブランド価値の確保につながり、長期的に見て、確実に利益を産み出すこととなる  
と言う意識を持つべきである。

## 3. 社内における安全意識の伝達・維持

安全意識を社内で伝達・維持するためには、次の点に留意する必要がある。

- (1) 一見すると取るに足らない些細なものがメッセージを粘り強いものにする。
- (2) 外部の環境（背景）の小さな変化が内面状態に大きな影響を与える。
- (3) 折に触れ、事故・安全に関する緊張感を醸成する。
- (4) 安全の重要性を過剰に意識すれば、安全意識の欠如につながる。

## 4. 利用者の最適な安全意識

利用者は、

- (1) 事故は現実には発生している。
- (2) 交通事業者や行政が完璧な対応をすることは困難。
- (3) よって、利用者も日常から、可能な限り、安全に関心をもつことが適切。
- (4) 自らの努力で防止できる事故については積極的に関心を持つべき。
- (5) 以上のような認識・行動は交通事業者や行政にとっても、「緊張」「補完」「理解」「協力」というよい効果をもたらす

という意識をもつべきである。

## 5. 利用者に対する安全情報の提供

交通事業者は、

- (1) 自社の安全への取組
- (2) 事故に対する対応
- (3) 安全には時間とコストがかかる
- (4) 事故ゼロは困難である

等を利用者に伝えたい意向がある一方、技術的問題を伝えることに苦勞する、又は、立場上言えないことがあるといった悩みを抱えている。

一方、交通事業者が提供する安全に関する情報が利用者にとって利用しやすいものなのかという問題がある。

## 6. まとめ

今後は、

- (1) 交通事業者・利用者の最適な安全意識
- (2) 交通事業者内部、交通事業者と利用者との安全に関するコミュニケーションのあり方
- (3) 以上を踏まえて行政として展開すべき政策

について、精査・検討を行う。